

録中では、我が国の本州沿岸への本種の初出現記録は白浜付近であったことに留意されたい (1959 年 2 月に田辺湾沖の瀬戸ヶ瀬: cf. 田名瀬・久保田, 1997)。なお、本種の漂着記録はあまりないことにも留意されたい。

オニヒトデは今や田辺湾周辺海域を含む和歌山県沿岸で凍死しないで、越冬して成長し続けているのは確かであろう。地元新聞の紀伊民報でもその様な事象が最近取り上げられているし、2017 年にも京都大学瀬戸臨海実験所北浜の岩礁で筆者は生体を見かけている (久保田, 2017)。オニヒトデ類はたった 1 科 1 属 2 種の小さな分類群であるが、紀伊半島沿岸では 2 種とも発見されており、両者の大量出現には今後も注意しなければならない。なぜなら、インド-西太平洋に広分布するオニヒトデは突発的に大発生し、造礁サンゴ類のミドリイシ類を特に食害して殺してしまうのは周知だからである。

引用文献

- 久保田 信. 2006. 打ち上げ個体も多数発見. In “宝の海から 白浜で出会った生き物たち”. 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県, pp. 108-109.
- 久保田 信・樫山嘉郎. 2009. 南方系ヒトデ類 2 種の和歌山県白浜町の海岸への漂着. どんぶらこ, 31: 3.
- 久保田 信. 2017. 南方系ヒトデ類 2 種の和歌山県白浜町の海岸への漂着. うみひろも (「海の生き物を守る会」メールマガジン), (210): 13.
- 新稲一仁・久保田信. 2010. 和歌山県白浜町の潮間帯に現れたオニヒトデ. Kuroshio Biosphere, 6: 31-35, 1pl.
- 田名瀬英朋・久保田信. 1997. 22 年間の空白後に出現した和歌山県白浜のオニヒトデ (ヒトデ綱, ヒメヒトデ目). 南紀生物, 39(2): 147-148.

オニヒトデが和歌山県白浜町の中大浜海岸へ再度漂着

久保田 信*

Acanthaster planci washed ashore again at a Naka-oochama coast in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota*

*〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

熱帯系のオニヒトデ *Acanthaster planci* (Linnaeus) の 1 個体が、強風日の直後、和歌山県白浜町の中大浜の海岸 (砂浜部の長さは 1300m) に今から 9 年前に 1 個体が漂着した (久保田・樫山, 2009)。今回、その海岸で本種の 1 個体が再び漂着していたので記録する。その個体は色彩が失われ、腕の大半が破損し、全体が乾燥したもので、間幅長が約 37 mm で、2017 年 12 月 14 日に潮上帯で発見した (図 1)。

和歌山県白浜町では次の様に幾つかのオニヒトデの出現記録がこれまでになされている。(1) 1959 年—1997 年: 番所崎周辺海域 (田名瀬・久保田, 1997); (2) 2004 年以降: 京都大学瀬戸臨海実験所北浜や塔島岩礁 (久保田, 2006); 白浜町瀬戸漁港 (久保田, 2006); 白浜町中大浜 (上記); 鴨居海岸 (久保田・新稲, 2010) 等。この記

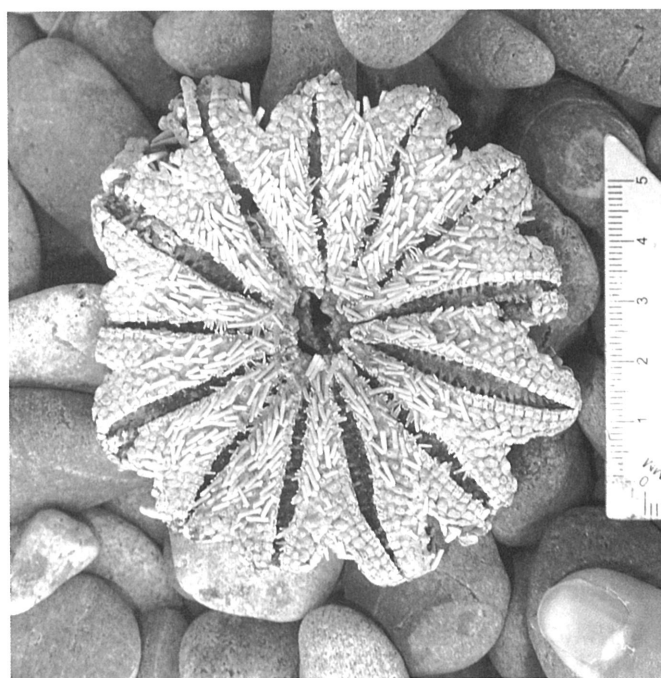


図 1 和歌山県白浜町の中大浜の海岸に 2017 年 12 月 14 日に漂着していたオニヒトデ *Acanthaster planci*